

新型コロナウイルス感染症 ～ 自宅療養中での家庭内感染の予防について ～

現在、新型コロナウイルスの急速な感染拡大で、感染が確認されたあと自宅で療養する人が急増しています。もしも自宅での療養となった場合にどうすれば良いか不安を感じる方も多いと思います。そこで、今月号では家族内感染を防ぐための基本的なポイントをお知らせいたします。

● 家庭内感染を防ぐポイント ※ 参考資料：自宅療養者向けハンドブック（東京都作成）等

1	できる限り家族との接触を避け、食事や療養する部屋を分けましょう
2	感染者の世話をする人は、できるだけ限られた方にしましょう
3	感染者・世話をする人はお互いにマスクをつけましょう
4	感染者の入浴は最後にし、タオルの共有は避けましょう
5	日中はできるだけ換気をしましょう（1～2時間に1回、5～10分程度）
6	手のよく触れる共有部分（ドアノブ等）を掃除、消毒しましょう
7	汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう（加熱式の乾燥機も有効）
8	感染者専用のゴミ箱を用意し、密閉して捨てましょう

看病はリスクの少ない方が望ましい



感染者専用のゴミ箱を用意し、密閉して捨てましょう

①ごみ箱にごみ袋をかぶせ、いっぱいにならないようにしましょう！

ごみは、いっぱいになる前に早めに出しましょう。



②ごみに直接触れることのないよう、しっかり縛って出しましょう！

ごみは、空気を抜いてからしっかり縛って出しましょう。万一、ごみが袋の外面に触れた場合や、袋が破れている場合は、ごみ袋を二重にしてください。



③ごみを捨てたあとはしっかり手を洗いましょう！

石けんを使って、流水で手をよく洗いましょう。



上記の他にも

- ・ご家族との会話は電話やメール・LINEで行う
- ・世話をする方もなるべく外出を控え、1日2回体温や酸素飽和度を測定するなど、ご家族全員で情報を共有し感染を予防しましょう。



※ 厚生労働省の基準では、症状がある場合は、発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快（解熱剤を使わなくても平熱が続き、咳や息切れなどが改善された状態）後72時間経過した段階で自宅療養は終了とされます。

石井病院 副院長 梶浦 孝之（循環器内科・内科）が神戸新聞に掲載されました



2021年（令和3年）8月18日 水曜日の神戸新聞 明石版“健康つうしん”にて、当院 副院長 梶浦 孝之 による「コロナ 心不全原因に」の記事が掲載されました。

記事では、心不全の解説やコロナ禍での自粛により、運動不足、食生活の乱れ、不摂生等の生活習慣の悪化が懸念され、それに伴い「心不全」の発症や症状悪化のリスクが高くなることなどを紹介しています。

新聞記事（全文）は、当院受付にて配布しておりますので、ご興味のある方はお気軽に受付にてお声かけください。



～ 透析患者さま高齢化対応について ～

現在、透析患者様の高齢化が進み、透析医学会発行の「わが国の慢性透析療法の現況（2019年12月31日現在）」より導入平均年齢は69.09歳、更に高齢者（65歳～）の割合は68.6%との報告です。高齢化に伴い、介護が、大きな問題となっております。独居患者様や、老老介護の患者様が多くおられ、その中で透析治療を受けられている患者様が増えております。平成30年7月に厚労省の取り組みとして、「腎疾患対策検討会」が開かれ、全体目標として、「自覚症状に乏しい慢性腎臓病（CKD）を早期に発見・診断し、良質で適切な治療を早期から実施・継続することにより、CKD重症化予防を徹底するとともに、CKD患者（透析患者及び腎移植患者を含む）のQOLの維持向上を図る」。対策として、「腎疾患の原因となる生活習慣病対策や、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの活用・かかりつけ医、メディカルスタッフ、腎臓専門医療機関等が連携して、CKD患者が早期に適切な診療を受けられるよう、地域におけるCKD診療体制を充実・2028年までに、年間新規透析導入患者数を35,000人以下に減少させる。（2016年の年間新規透析導入患者数は約39,000人）」です。このように、高齢になってからの生活習慣病による腎症発症を予防し、導入患者様を減少させるよう国としても対策を実施しております。



仁恵会本部事務局長代行
兼 人工透析ひ尿器科
じんけいクリニック
事務長代行
はら しんいちろう
原 真一郎

当院では、平成31年4月より慢性腎臓病外来（完全予約制）の専門外来を開き、地域の慢性腎臓病患者様の早期発見・治療を行い、外来より患者様との関係を築き、透析治療へのスムーズな導入から、安全安心な透析ライフを継続していただいております。

更に高齢化の中で、透析患者様の介護問題にも取り組み、当センターでは、ご自身で来院できない患者様を対象に、無料送迎（車椅子対応）を実施しております。現在、午前中患者様のみ対応させていただき、午前来院患者様の76%が送迎を利用し、内32%が車椅子を利用されております。車椅子を利用される患者様は、昨年度比較しても、約二倍となりました。送迎サービスを実施している施設は多数ありますが、当院は全患者様、車（ハイエース）が入れる道であれば、基本のご自宅前までお迎えを実施しております。ご自宅前まで少し距離がある場合や、ご本人様だけで送迎をお待ちいただくのが不安な方には、介護サービスを利用していただき（患者様ケアマネ要相談）、介護ヘルパーを利用していただき、送迎の介助をお願いしております。各患者様の介護ヘルパーとは、逐次連絡し、連携をとりながら送迎をしております。当院へ到着時、玄関前より介護助手が、入り口から透析室までの介助を行い、安全に患者様を透析治療へお送りしております。

これからも、高齢化する医療に対応できるクリニック及び病院として、透析センターの患者様へ「仁＝思いやり」をモットーに信頼される医療を提供し、地域へ貢献できるよう研鑽してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

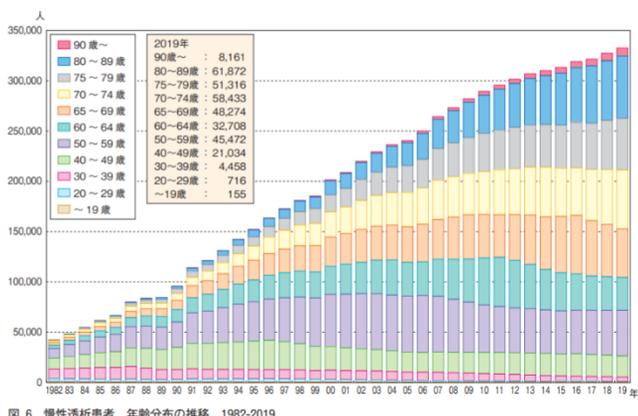


図6 慢性透析患者 年齢分布の推移, 1982-2019

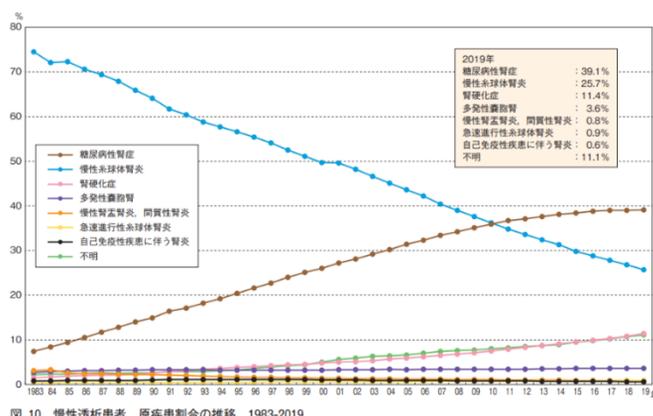


図10 慢性透析患者 原疾患割合の推移, 1983-2019

■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00～12:00 14:00～17:00
土曜 9:00～12:00
担当 酒見 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>